リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京都市立南大内小学校（京都府）

【取組内容⑤】 地域・保護者への理解とICT普及 ～学校の取り組みと地域・保護者への働きかけ～

- 様々な場面において保護者連絡ツールやForms等を積極的に活用し情報発信の充実に取り組んだ。
- 特に、地域へは学校運営協議会を通じて一人一台端末を活用した授業を実践していることを伝えた。また、一人一台端末を活用していることで起こる問題や困りを相談し、それらに対するアドバイスや解決につながるヒントをいただくことができた。保護者へは保護者連絡ツールへの登録をお願いし、その活用法を伝えることで全家庭登録を実現することができた。これにより今まで以上に学校と家庭の情報共有を豊かにすることができた。

（地域への働きかけとICTを活用した主な取組実践）

学校運営協議会で学校評価アンケートの結果を伝えた。児童アンケート項目に「一人一台端末を使う授業は楽しいですか」という項目があり、「そう思う」「大体そう思う」が90%になることから一人一台端末がいかに児童にとって大きな役割を果たしているかを伝えた。しかしその反面、一人一台端末を使う際のルールや使い方等で困りがあることを相談し、アドバイスや解決につながる助言をいただくことができた。

大きな行事はYouTubeでライブ配信を行っている。１２月に八条中学校吹奏楽部の方々が本校体育館でクリスマスコンサートを開催してくれた際もライブ配信を行った。【左図】
今年度は５月の１年生を迎える会からライブ配信を行い、1年生保護者を対象にその様子を発信した。運動会や学習発表会でも同様に全学年の保護者にライブ配信を行い、仕事等で来校できない保護者や当日残念ながら欠席した児童が視聴した。6年生を送る会でもライブ配信を予定している。
ライブ配信のためのリンクは保護者連絡ツールを活用して各家庭に配信している。【右図】